

Review: 建築設計の境界線

Presenter: 古澤 えり (所属: 東京大学工学部建築学科 4 年)

Lecture title: 建築設計の境界線

Review: この講演では、古澤さんは自身の作品の紹介を通して、建築設計 (特に、意匠設計) をする者として自身の考えを述べた。本講演は group epsilon meeting 初の建築分野の講演であったので、多くの聴衆も聞きなれないトピックであったと考えられるが、親切な解説によって私は最後まで聞き入ってしまうような魅力的な講演であった。

まず、古澤さんは建築の基礎用語の説明から講演を始めた。建築は主に「構造、材料、環境、歴史、計画、意匠」の 6 つに分かれること、古澤さんは意匠 (特に、意匠設計) という「建築物の見た目の美しさやメッセージ性」などを考える分野に所属していることを述べた。

次に、意匠設計という視点から設計とは何かについての考察を行った。ここで行われた古澤さん独自の、関数という数学的対象を用いた考察は、その後に多くの epsilon 会員の注目を集め、現在では「古澤関数式試論」と呼ばれており、自由討論を巻き起こさんとしている (このことについては後述する)。

そして、古澤さんが取り組まれた課題『「後戸」の概念を、都市に対して拡張する』に対する作品「時間の等高線」についての説明があった。課題の具体的内容は、渋谷にある東横線の高架跡に、研究施設付きの森林を作ることであった。その際に、「裏の世界」であったり「禁忌」を意味する「後戸」の概念を都市に対してどれくらい拡張できるかということが問われていた。この課題に取り組むにあたって、古澤さんは「建築の最期」に対する現代の考え方へ疑問を抱いた。現代では建築物は (作る際には) 半永久的に使えるもの考えるのが基本であるそうだが、古澤さんは「建築物にも寿命があっても良いのではないか」と考えた。そこで考えられたのが「融ける建築」である。数十年スパンで建築が次第に雨で融けて行き、最期には森林になることで「人間が逆らえない寿命」という「後戸の概念」が表現されていた。また、この融ける建築には朽ちていくことへの魅力がある。この考えには多くの聴衆が賛同したが、それと同時に完全に朽ちる必要はなかったのではないかという意見も出た。朽ちていく部分もありつつ、その朽ちたものの中から新しいものが生まれ得ないのかということが delta で話し合われるなど、古澤さんの作品は多くの方の興味を引くものであった。

最後に「古澤関数試論」について述べる。古澤さんは意匠設計とは何かを次のように説明された: 様々な条件が関数 $f_1(x), \dots, f_n(x)$ と表されたとするならば、それらをかけ合わせた関数 $F(x) = f_1(x) \dots f_n(x)$ を最良の値とするような x を見つけることが意匠設計である¹⁾。このような考え方に対し、デザイナーの久保田栄一氏は delta において、「私がやっていたような、ペンをどちらに走らせるかのようなデザインではなく、与えられた選択肢を如何に組み合わせるかという行為だ」とおっしゃっていた。確かに、条件を先に用意した上で、それらが「予定調和」となるように組み合わせるのは数学的な考え方に近く、久保田栄一氏が前からおっしゃる「デザイナーズジャンプ」とは異なると言える。しかしながら、この条件の用意の仕方や組み合わせの方法論自体は特にないようで、古澤さんに今回のアイデアのきっかけを伺ったところ「御茶ノ水を歩いていたら思いついた以上のものではない」とのことであった (この応答については、自分の中では少し腑に落ちていない。またの機会に聞いてみたいと思う。)²⁾ことから、これも「デザイナーズジャンプ」の一種ではないかと私は思う。この古澤関数試論はデザイナーズジャンプの新しい現れとして、さらなる考察が得られるのではないかと私は期待している。

建築の初歩からはじめ、epsilon に多くの議題を提供した素晴らしい講演は古澤さんならではのものであった。ここに感謝の意を表して、レビューを終える。

Review writer: 杉ノ内 萌 (所属: 早稲田大学基幹理工学部数学科 3 年)

講演者の古澤さんからレビューへいくつかのコメントをいただきました。以下それを掲載します。

1) 設計とは何か」の部分で紹介した函数は、「意匠設計」(見た目の設計)を内包した、その他構造や環境などの要素も含んだ総合的な設計の説明のためのものです。

2) 御茶ノ水で思いついたのは、「寿命を持って融ける建築をつくる」というコンセプトの部分だけです。これが湧いてきたこと自体は「デザイナーズジャンプ」の一種と捉えることも可能だと思います。しかしながら、そこから先で具体的な設計をする上では、例の函数にあてはめながら、具体的な融け方を検討し、材料や構造、融ける速さなどを逐一代入しては $F(x)$ を最適化する作業をしています。

G^E_P (Group Epsilon) Central Executive Committee (CEC)
 $F^M_F_k$ (Free Math Forum by kymst) URL: <http://kymst.net>
Subpage "Action of Group Epsilon"
URL: <http://kymst.net/index.php?GrpE%2Findex>
Contact us, mail to :-) kymstkymst@gmail.com

